



校歌

作詞 壽岳文章
作曲 大澤壽人

一、

歴史は古き河後に
生くるこの日をよろこびて
土に親しむあさゆうの
いのちをひらく智慧のかぎ
この河原田の学びやは
若うどわれらのこころのふるさと

二、

柑橘みのる丘の上
夢多き日の眼をあげて
東を見れば海の青
さやけく胸にしみわたる
この河原田の学びやは
若うどわれらのこころのふるさと

三、

むかしローマのうたびどが
すべてに勝つとたたえたる
額の汗のたうとさを
知りて三とせの春と秋
この河原田の学びやは
若うどわれらのこころのふるさと

校章制定の由来



我が校は昭和25年4月、三重県立河原田高等学校と改称し、農業学科の他に新たに家庭科が設置された。

これを機に同年5月校章制定委員会を設けて職員生徒から校章の原案を募集し、応募作品中より全校投票によって現校章を採択決定した。意匠は農業学科を表す稲の穎と家庭学科を表す撫子の花を組み合わせ、中央に「高」の字を配したものである。

目 次

1. 位 置	1
2. 沿 革	1
3. 教育目標及び重点目標	2
4. 農業に関する学科概要	2
5. 家庭に関する学科概要	5
6. 学習内容紹介	8
7. 校地・校舎・施設	12
8. 教育課程表	13
9. 教職員組織	15
(1) 運営組織	
(2) 学級担任	
(3) 各部分掌	
(4) 教職員数	
(5) 教職員名簿	
10. クラブ・同好会顧問	19
11. 生徒に関する調査	20
(1) ホームルーム別生徒数	
(2) 通学方法別生徒数	
(3) 通学時間別生徒数	
(4) 通学経費別生徒数	
(5) 出身中学校別生徒数	
12. 卒業生の進路	22
(1) 進路状況	
(2) 職業別就職者数	
(3) 主な進路先	
13. P T A・同窓会・昭栄会	23
(1) P T A	
(2) 同窓会	
(3) 昭栄会	
14. 校舎配置図	24
(1) 校舎配置図	
(2) 実習地配置図	

1. 位 置

本校は、三重県四日市市河原田町2847番地に所在、J R東海関西線又は伊勢鉄道河原田駅下車徒歩10分の丘の上にあつて伊勢平野・伊勢湾を見下ろし、晴れた日は遠く知多半島、セントレアを眺望できる、四季緑に包まれた閑静な環境である。

2. 沿 革

昭和 4年2月21日	三重県立河原田農学校設立認可 鈴鹿農学校（明治45年創立） 三重農学校（大正4年創立）の両学校の生徒を再編して開校
昭和10年3月21日	学則一部改正第3学年を農科・園芸科に分科
昭和17年2月 2日	卒業期繰上げに伴い臨時補修科を設置
昭和18年4月 1日	三重県立農学校学則制定に伴い、農学科及び園芸科を設置
昭和23年4月 1日	畜産科を設置
昭和23年5月22日	学制改革により三重県立河原田農学校廃校
昭和23年5月23日	新学制により、三重県河原田高等学校として発足
昭和24年3月31日	三重県四日市高等学校河原田部となり 普通課程、農業課程を設置
昭和25年3月31日	三重県河原田高等学校と改称 農業課程、家庭課程を設置
昭和30年4月 1日	三重県立四日市農芸高等学校と改称
昭和37年4月 1日	農産製造科を設置
昭和48年4月 1日	畜産科を廃止、造園土木科を設置、 農産製造科を食品製造科と改称
平成 3年4月 1日	造園土木科を環境造園科と改編
平成 5年4月 1日	家政科を生活文化科と改編
平成 7年4月 1日	農業科を流通システム科、園芸科を緑花システム科と改編
平成 8年4月 1日	食品製造科を食品科学科と改編
平成15年4月 1日	農業学科4科を生産科学科、食品科学科、環境造園科、 園芸科学科に改編
令和 3年4月 1日	農業学科4科を3科（農業科学科、食品科学科、環境造園科）に改編

歴代校長

昭和 4年 3月～ 8年 3月	小林英一	昭和47年 4月～56年 3月	伊達敏宇
昭和 8年 4月～ 9年 3月	槌賀安平	昭和56年 4月～59年 3月	石井潤次郎
昭和 9年 4月～16年 3月	立石恒四郎	昭和59年 4月～62年 3月	永田 勉
昭和16年 4月～19年10月	矢田 威	昭和62年 4月～平成2年3月	森口 貢
昭和19年10月～21年 2月	大滝儀治	平成 2年 4月～ 5年 3月	別府銀孝
昭和21年 2月～24年 3月	浅井政男	平成 5年 4月～ 8年 3月	平井 卓
昭和24年 4月～25年 3月	福岡法重	平成 8年 4月～11年 3月	佐々木玄雄
	部長 大河内陽雄	平成11年 4月～13年 3月	濱上要範
昭和25年 4月～26年 3月	下河茂嗣	平成13年 4月～17年 3月	井田俊彦
昭和26年 4月～27年 3月	田辺武男	平成17年 4月～23年 3月	竹尾 泰
昭和27年 4月～35年 3月	栗林武男	平成23年 4月～26年 3月	竹森淳二
昭和35年 4月～38年 3月	三輪勇四郎	平成26年 4月～28年 3月	辻 修一
昭和38年 4月～43年 3月	佐久間正圓	平成28年 4月～令和3年3月	田牧明浩
昭和43年 4月～47年 3月	富田正秋	令和 3年 4月～	中田直人

3. 教育目標及び重点目標

(1) 目指す学校像（基本理念）

共通教科並びに専門教科を通した教育活動の充実に努め、専門技術者（スペシャリスト）を育成するとともに、心豊かな人間性を育み、地域社会に貢献できる人材を育成する学校。

育みたい生徒像

- 将来のスペシャリストとして、専門科目への興味・関心を持ち、専門的な知識・技能の習得を自主的に行うことができる生徒。
- 自ら進んで挨拶し、コミュニケーションをとることで、公共心、規範意識、人間関係を築く力、自尊感情を高めることができる生徒。

ありたい教職員像

- 目指す学校像実現に向けて、生徒指導力と学習指導力を高めることができる教職員。
- 生徒の可能性を信じ、生徒に寄り添いながら自らも成長することができる教職員。

(2) 中長期的な重点目標

教育活動

- ・将来のスペシャリストや地域産業を担う人材の育成のため、高等教育機関や産業界等と連携して、より実践的な学習活動を展開する。
- ・基礎学力の充実と専門教科指導を強化し、生徒一人ひとりが持つ能力を引き出し、希望の進路実現につなげる。
- ・心の教育や部活動を通して、規範意識を醸成し、生徒の自主性や個性の伸長を図る。

学校運営等

- ・中学卒業生の減少傾向が進む中で、中学生やその保護者にとって魅力のある「新しい農芸高校」の実現に向けて全教職員で取り組む。
- ・専門高校の特色を活かした進学に向けた指導体制を確立する。
- ・教育相談や特別支援教育の充実のための体制づくりを進める。
- ・組織の業務内容の見直し、総勤務時間の縮減に取り組む。

4. 農業に関する学科概要

☆農業科学科

施設を利用した都市型農業や作物、野菜、花の栽培に関する知識や技術を学びます。

食料生産コース

農作物を種まきや水やり、追肥、収穫や土作りなどの管理作業をすることで、栽培に関する知識や技術を身につけます。また、ニワトリやウサギなどの動物を飼育することで命の大切さや尊さを学びます。

施設園芸コース

これからの施設園芸について考えるとともに、花と緑に囲まれて地域づくりができる人材を育てます。環境制御をおこなう水耕温室での安全・安心な野菜栽培技術の習得と花を活用したアレンジメント技術の習得を目指します。

☆食品科学科

食の安全・安心について食品業界で求められる知識や技術の習得、地域資源を用いた商品開発について学びます。

食品科学コース

食の安全性について理解を深め、食の大切さについて学びます。食品製造・食品分析ならびに国際基準の食品衛生に関する知識や技術を学び、高度化・多様化する食品業界で求められる職のスペシャリストを目指します。

食品開発コース

健康的な食づくり、栄養機能など幅広く食品について深く学びます。そして、地域の農産物を用いた新しい食品の開発、販売を通して発想力、企画力、表現力を磨き、地域に根差した食のクリエイターを目指します。

☆環境造園科

自然と人との調和を図り、庭造りや公園設計、地域の自然環境の保全や再生について学びます。

造園技術コース

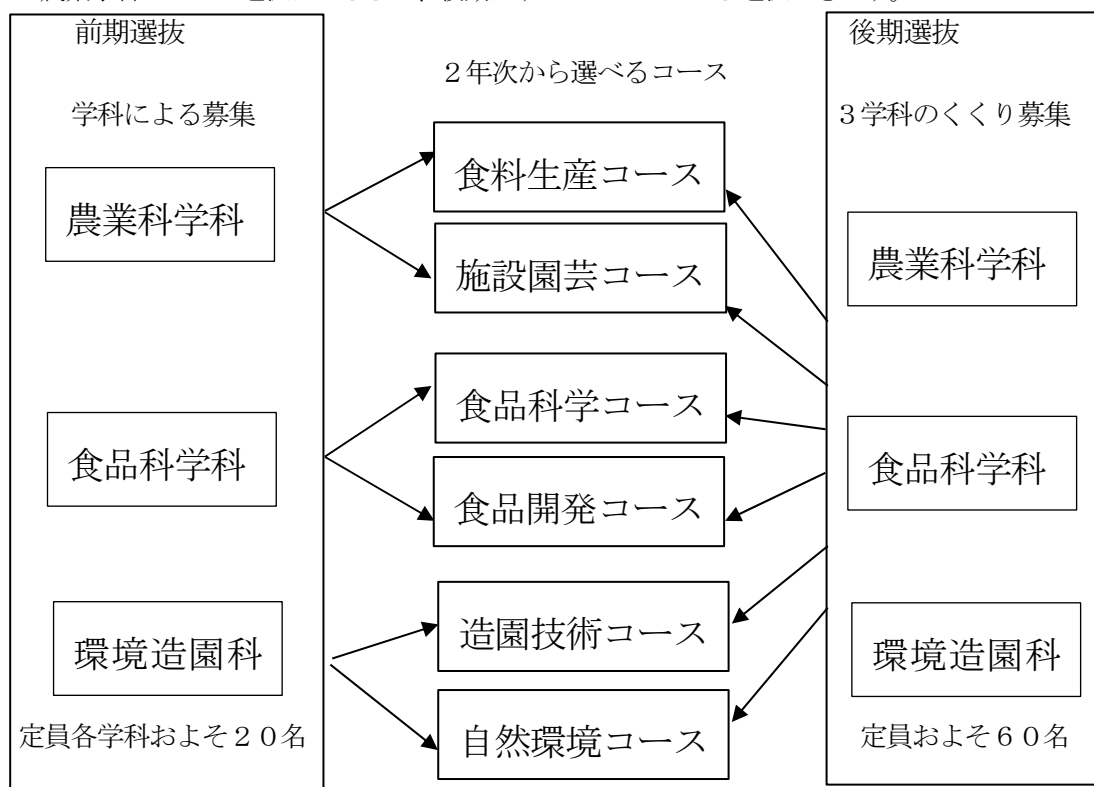
庭に代表される、地域の緑や景色を「つくる・まもる」知識と技術を持った造園のスペシャリストの育成を目指します。伝統的な日本庭園から、現代のエクステリアまで幅広く学べます。

自然環境コース

現代の日本では、環境に配慮した行動がすべての人や企業に求められています。川や森をフィールドに、そこでくらす生き物について深く学びます。将来は、地域で活躍できる環境教育指導者、エコロジストを目指します。

(1) 設置学科及び人数

農業学科のコース選択はどちらか、後期はすべてのコースから選択できます。



(2) 取得できる検定・資格等（検定・資格等の名称）

農業技術検定 2 級・3 級 大型特殊自動車運転免許（農耕用） 毒劇物取扱者 危険物甲種 危険物取扱者乙種第 1 類～6 類 ガス溶接技能講習修了 アーク溶接特別教育修了 フォークリフト運転技能講習修了 造園技能士 2 級・3 級 造園施工管理技士補 玉掛け技能講習修了 小型車両系建設機械特別教育修了 小型移動式クレーン技能講習修了	園芸装飾技能士 3 級 フラワー装飾技能士 3 級 ボイラー技士 2 級 食品衛生責任者 情報処理技能検定（表計算）1 級・2 級・3 級 文書デザイン検定 1 級・2 級・3 級 日本語ワープロ検定 1 級・2 級・3 級 プレゼンテーション作成検定 1 級・2 級・3 級 生物分類技能検定 3 級・4 級 食生活アドバイザー検定 3 級
---	--

(3) 学校農業クラブ活動

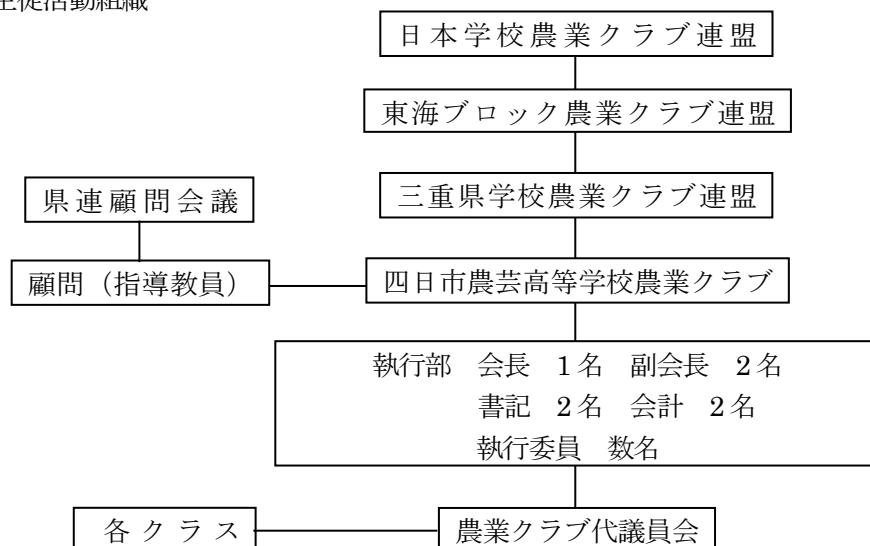
①指導目標

学校農業クラブ活動を通じてクラブ員の個性の伸長をはかるとともに、農業自営者・関連産業従事者などの産業人としての資質を高め、明日の地域の発展に寄与できるように創造性と実践力を養う。

②指導方法

- （ア）指導性を高める：各行事に積極的に参加し、他と協調しながら集団の中でリーダーシップが取れる能力を養う。
- （イ）社会性を高める：広い視野をもった幅広い人材を養い、公共に奉仕できる資質を育成する。
- （ウ）科学性を高める：自己の進路に対する考えに基づき専門的な能力と技術を向上し、地域社会の生活環境を改善する能力を養う。

③生徒活動組織



④年間行事

4月	役員選挙 1年生オリエンテーション	8月	東海ブロック大会
5月	県連代議員会 総会	10月	全国大会
6月	校内意見発表会	11月	農芸祭 年次大会
7月	上級位検定 各種技能検定	12月	プロジェクト発表校内大会
	県連幹部講習会	1月	プロジェクト発表県大会
	意見発表県大会	2月	会報発行 県連代議員会

5. 家庭に関する学科概要

☆生活文化科

(1) 学科の目標

衣・食・住、福祉等の家庭生活に関する基礎的知識と技術を習得させ、日本の生活文化を尊重し、国際的な視野をもって、生活関連産業で活躍する豊かな想像力を持つ人材を育成する。

(2) 各コースの目標

第2学年からは、4つのコースに分かれて各専門科目を学習する。

食物経営コース

食物に関する知識と技術を習得させ、これらに関する職業に必要な技能と実践的態度を育てるとともに、時代に先駆ける豊かな食生活を創造する能力を養う。

製菓衛生コース

製菓・製パンに関する基礎的な知識・技術を習得させ、これらに関する職業に必要な技能と実践的態度を育てるとともに、潤いのある食生活を創造できる能力を養う。

服飾経営コース

服飾に関する知識と技術を習得させ、これらに関する職業に必要な技能と実践的態度を育てるとともに、時代の変化に対応できる豊かな感性と創造力を養う。

生活福祉コース

福祉に関する知識と技術を総合的に習得させ、これらに関する職業に必要な実践的態度を育てるとともに、時代の変化に対応できる創造性や福祉の心を育成する。

(3) 専門科目

1年生で学習する専門科目

家庭総合、生活産業基礎、生活産業情報、フードデザイン、ファッション造形基礎

2年生、3年生で学習する専門科目

食物経営コース

フードデザイン、調理、食品、食品衛生、生物活用、生活産業情報、課題研究

製菓衛生コース

フードデザイン、調理、製菓・製パン、食品衛生、生活産業情報、課題研究

服飾経営コース

ファッションデザイン、服飾手芸、ファッション造形、染色、生活産業情報、課題研究

生活福祉コース

住環境、フードデザイン、地域コミュニケーション、生活と福祉、保育基礎、保育実践、生活産業情報、課題研究

(4) 取得できる資格（授業の一環として）

<共通> 全国高等学校家庭科技術検定 被服製作3級
全国高等学校家庭科技術検定 食物調理3級
日本情報処理検定協会 日本語ワープロ検定 1級まで受験可能
日本情報処理検定協会 情報処理技能検定 2級まで受験可能
民族衣装文化普及協会着付け初級講師（3年課題研究）

食物経営コース

食生活アドバイザー検定3級
全国高等学校家庭科技術検定 食物調理2級・準1級・1級

製菓衛生コース

製菓衛生師受験資格（希望者）
食生活アドバイザー検定3級
全国高等学校家庭科技術検定 食物調理2級・準1級

服飾経営コース

毛糸編み物技能検定4級
色彩検定3級

生活福祉コース

日本赤十字社救急法救急員	保育技術検定	家庭看護技術準1級 造形表現技術2級 言語表現技術2級
日本赤十字社幼児安全法支援員		
日本赤十字社健康生活支援員		
福祉住環境コーディネーター3級		

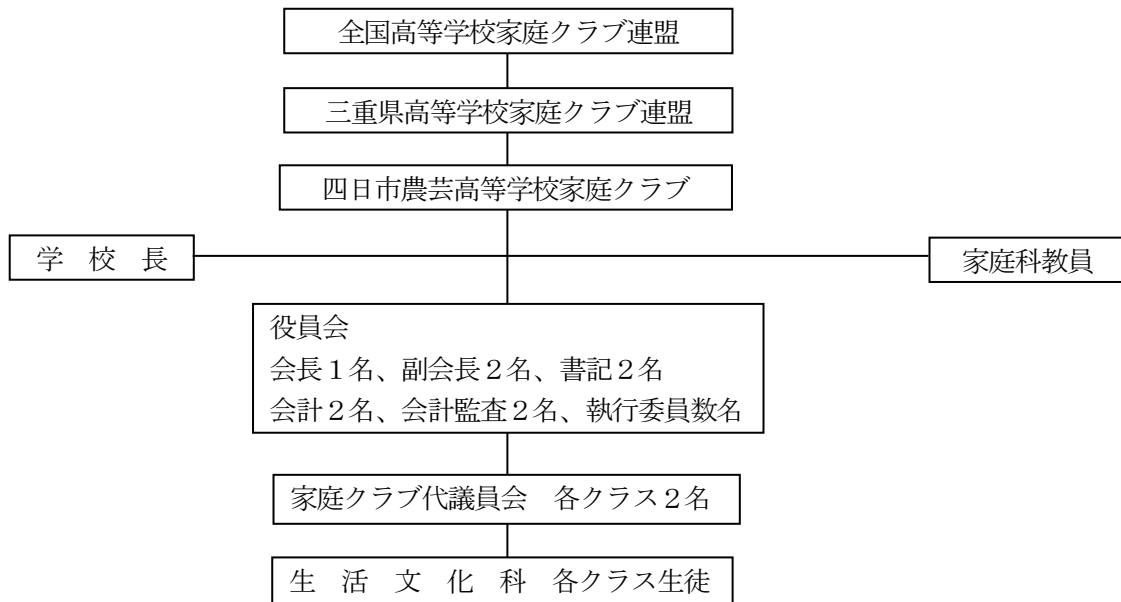
(5) 学校家庭クラブ活動

高等学校で家庭科を学習する生徒で組織、地域社会の家庭生活の改善向上をはかる活動を行う。
基本的精神として「創造」「勤労」「愛情」「奉仕」の4つの柱を掲げている。

①目的

- (ア) 会員相互の友情を深め、家庭クラブの発展をはかる。
- (イ) 家庭科に関する興味を深め、家庭科の学習を確実に身につける。
- (ウ) 協力・共同などの社会性を培い、社会に奉仕する態度を養う。
- (エ) 社会の一員として、より良い社交性を身につける。

②組織・会員は生活文化科生徒である。



③年間行事計画

4 月	前期役員選挙
5 月	県連第1回代議員会、総会、家庭クラブ週間、奉仕作業
7 月	全国高等学校家庭クラブ研究発表大会
8 月	河原田地区講習会、県連指導者養成講座、県連第2回代議員会
9 月	後期役員選挙
11 月	県連家庭クラブ研究発表大会、農芸祭参加
12 月	校内ホームプロジェクト発表会、お茶淹れ講習会
2 月	機関誌発行、県連第3回代議員会

6. 学習内容紹介

【環境教育】

四日市農芸高等学校は、平成14年度よりISO14001を認証取得、20年間継続してきました。令和5年度から全教職員で本校独自の環境マネジメントシステムを構築し、学校教育の中に環境活動、地域とのコミュニケーションを積極的に取り入れた環境教育を展開しています。

環境目的・目標の重点項目として、『環境教育』を掲げ、生徒に「想像力」「行動力」「理解力」の3つの力をつけるために、各教科・コース別に具体的な環境教育プログラムを実践しています。

環境週間(6月)・・・生徒環境委員会による清掃状況のチェックを実施しています。「学校環境デー」を設定し地域の美化・清掃活動等を実施しました。

環境月間(11月)・・・全教職員で「環境教育の実施」。農芸祭後に地域清掃も実施しました。

また、みえ環境フェアに出展。本校の環境教育活動の紹介及び農産物の販売を行い、情報発信を実施しています。



「学校環境デー」(地域の清掃活動)



「みえ環境フェア」

自然環境コースでは毎年、四日市市水沢町にある「四日市市少年自然の家」で校外実習を行います。ここで里山に関わる講習と保全のための実技指導を受けます。この実習では、「環境保全」活動の基本的な考え方と技術を実践的に学ぶことができます。

「里山保全活動の様子」



【地域との交流】

食料生産コースでは、スーツや織物を手がけている御幸毛織株式会社から「ウール廃材を農業に有効利用できないか」とお話を頂き、取り組みをすすめています。四日市市は、「紡績業」と深いつながりがあります。今年も、環境に優しい農業実践と新しいビジネスモデルの構築を目指して、企業とともに研究を続けています。

また、**食品開発コース**では、四日市市商工会、四日市市役所農水商工部のご協力を得て、塩浜

そして、生活文化科**生活福祉コース**では、地元の保育園や学童保育所、高齢者介護施設だけでなく、河原田地区で毎月第3水曜日に行われている「すくすくサロン」にも参加し、乳幼児から高齢者まで幅広い年代の方々との交流を通じて、多くの経験を積んでいます。**食物経営コース**では、地域の郷土料理について学ぶとともに、地場産業である「萬古焼」の食器を自らデザイン・制作し、卒業制作展で自身が作った料理を盛り付けて展示することによって、地域に対しての興味関心を育んでいます。



「塩浜市場」の活性化に協力



「すくすくサロン」



「郷土料理講習会」



「萬古焼の器を使った卒業制作」

農業学科食品開発コースは地元企業と連携して、地元食材を用いた新商品の開発を行っています。

専門高校では、プロジェクト学習として研究成果をまとめ、プレゼンテーションを行う力を身につけています。

「商品開発とPR活動」

— 9 —

【専門教育と資格取得】

卒業後に即戦力として社会に役立つ人材育成のため、様々な専門教育と資格取得に力を入れた教育を実践しています。**造園技術コース**では、春休みを利用して2日間造園現場の実習（インターンシップ）を取り入れています。樹木の剪定枝をチップにして活用するなど環境教育にも力を注ぎながら、将来の造園のエキスパート育成のため積極的に資格取得に向けた学習に取り組んでいます。



「造園技能士資格取得」



「フラワー装飾技能士資格取得」



「現場実習風景」



「園芸装飾技能士資格取得」

専門性の高い資格

販売士検定 3 級
2 級、3 級造園技能士
2 級造園施工管理技士（学科）
小型移動式クレーン
小型車両系建設機械
2 級、3 級フラワー装飾士
3 級園芸装飾士
福祉住環境コーディネーター
日本赤十字社救急法救急員
健康生活支援講習支援員

施設園芸コースでは切り花や鉢ものを活用した国家検定に取り組み、受検者はほぼ全員が合格しています。

食物経営コースでは、「調理」「食品」「食品衛生」「フードデザイン」「生物活用」などを学び、食生活アドバイザー検定 3 級、食物調理技術検定 1 級の取得を目指しています。また、各種コンテストへの応募など、より実践的な機会を多く設けています。**製菓衛生コース**では学校設定科目「製菓製パン」の授業を柱に、「食品衛生」「フードデザイン」などを学び、外部講師を招き、より実践的な技術の習得に取り組んでいます。また、希望者は 2 年生の時、専門学校通信課程で学び、3 年生で国家試験を受験し、在学中に製菓衛生師資格を取得しています。**服飾経営コース**では学んだ知識や技術を活かし、自分の体型にあった服や、自分でデザインしたドレスを製作しています。また、白生地独自の柄を染めた反物で仕立てる、世界で 1 枚だけのオリジナル浴衣の製作も行っています。こうした取り組みから、校内、校外のファッションショーへの参加、各種コンテストへの応募など、活躍の機会がたくさんあります。また、毛糸編物技能検定や色彩検定にも取り組んでいます。**生活福祉コース**では社会福祉の基礎知識、介護技術、点字・手話、福祉レクリエーション、保育などの専門教育を行い、外部講師を招き実践的な教育を行っています。



「生徒作品」



「外部講師による授業」(製菓)



「生徒作品」



「浴衣の染色」



「高齢者施設での交流」



「救急法救急員講習会」

【DXハイスクールの取り組みについて】

令和6年度より文部科学省の高等学校DX加速化推進事業に採択され、自動操蛇トラクタの導入などのスマート農業の実践やプログラミングロボットを利用した情報科目の設定を実施しています。また、より高度な知識技術の習得を目指すための大学進学率の向上や産業界や地域に合った職業人材育成にも取り組んでいます。



「自動操蛇トラクタの操縦演習」



「ドローン操作による実習圃場の空中撮影」

7. 校地・校舎・施設

(1) 校地および実習地

種別		県有地 m ²	借地 m ²	計 m ²
校地	校内敷地	37,107		37,107
	運動場	17,422		17,422
	排水路用地	276		276
	小計	54,805		54,805
実習地	水田	11,318		11,318
	果樹園	1,251		1,251
	普通作物園	15,515	705	16,220
	校内農場 (通路・斜面含む)	7,528		7,528
	小計	35,612	705	36,317
合計		90,417	705	91,122

(2) 校舎・施設

区分	面積m ²	室名	階
管理棟	3,112	校長室、事務室、第一会議室、職員室、休養室、印刷室、保健室、宿直室・休養室、放送室、視聴覚室、学校技術員室	1 階
		作法室 (和室・洋室)、生徒指導室、生徒会室、選択教室 2A、選択教室 2B、教室(3)	2 階
		図書室、司書室、進路指導室、談話室、進路資料室、教室(5)	3 階
農業理科棟	3,780	総合実習室、農場管理室、農場販売室、農業実習宿泊室、販売情報室、教育相談室、農機具整備実習室	1 階
		食品化学実験室、応用微生物実験室、第一情報室 農業情報室、農業実験室	2 階
		第二会議室、農業クラブ室、教室(3)、ゼミ室、社会科教室	3 階
		化学教室、理科教室、第1 演習室、第2 演習室、美術室	4 階
家庭科棟	1,674	第1 調理室、家庭科職員室、第2 調理室、家庭経営室	1 階
		被服室、家庭経営総合実習室、教室(2)	2 階
		服飾デザイン室、家庭情報室、教室(2)	3 階
環境造園棟	1,518	施工実習室、管理実習室、材料実習室、造園実習室	1 階
		環境実験室、造園管理室、製図室	2 階
		設計実習室、測量実習計数処理室、測量実習室、計画造形実習室	3 階
食品製造 農業科棟	1,627	食品製造実習室、食品管理室、漬物加工室、共同農具室 果実選果貯蔵室、肥料庫、ボイラー室	1 階
		味噌製造室、こうじ製造室、菓子製造実習室、原料製品庫 器具庫、更衣室(6)	2 階
		バイテク室、生物工学実験室、第二情報室、更衣室(6)	3 階
体育施設	2,406	体育館、武道場、トレーニングルーム	
農場施設	3,091	農業機械格納庫、粃乾燥調整室、堆肥舎、サイロ、鶏舎 作業場倉庫、温室、水耕温室、ボイラー室、温室管理棟	
その他	557	部室等	
合 計	17,765		

8. 令和7年度実施教育課程表

三重県立四日市農芸高等学校 農業学科

学 科 学 年 科／コース				農 業 学 科															
				1 年			2 年						3 年						
				農業	食品	環境	農業科学		食品科学		環境造園		農業科学		食品科学		環境造園		
教 科	科 目	標準単位	科学	科学	造園	食料生産	施設園芸	食品科学	食品開発	造園技術	自然環境	食料生産	施設園芸	食品科学	食品開発	造園技術	自然環境		
国 語	現 代 の 国 語	必	2				3		3		3								
	言 語 文 化	必	2		3														
	文 学 国 語		4									3		3		3			
地 理	地 理 総 合	必	2		2														
歴 史	歴 史 総 合	必	2									3		3		3			
公 民	公 共	必	2				3		3		3								
数 学	数 学 I	必	3		3														
	数 学 II		4				2		2		2		2		2		2		
理 科	科学と人間生活	必	2									2		2			2		
	化 学 基 礎	必	2		2														
	化 学		4				B2		B2		B2		B2		B2		B2		
	生 物 基 礎	必	2		2														
	生 物		4				B2		B2		B2		B2		B2		B2		
保 健	体 育	必	7～8		2		2		2		2		3		3		3		
	保 健	必	2		1		1		1		1								
芸 術	美 術 I	必	2		2														
外国語	英語コミュニケーションⅠ	必	3		2														
	英語コミュニケーションⅡ		4				2		2		2		2		2		2		
	論理・表現Ⅰ		2				A2		A2		A2		A2		A2		A2		
家 庭	家 庭 基 礎	必	2				2		2		2								
共通科目の単位数の計					19		15～19		15～19		15～19		15～19		15～19		15～19		
農 業	農業と環境		2～6		5														
	課題研究	必	2～6				3		B2		2		3		3		3		
	総合実習		4～13		4 (1)		4 (1)		4 (1)		4 (1)		4 (1)		4 (1)		4 (1)		
	農業と情報	必	2～6		2														
	作物		2～8				2						2						
	野菜		2～8				2						A2						
	草花		2～8					A2						A2					
	畜産		2～10				A2												
	栽培と環境		2～6				B2						2						
	農業機械		2～6									B2							
	食品製造		2～8						3						2+A2	2			
	食品化学		2～8						2						2	B2			
	食品微生物		2～6						2						B2				
	食品流通		2～6						A2										
	造園計画		3～8								A2+B2						A2+B2		
	造園施工管理		2～6								2						2		
	造園植栽		2～6								2						2		
	測量		2～8								3								
	生物活用		2～6				B2							B2					
	地域資源活用		2～8									2							
都市園芸 (学)																			
動物活用 (学)												2							
食と健康 (学)															2				
アグリビジネス (学)															A2				
環境科学 (学)																	2		
家 庭	食品衛生		2～6					B2											
専門科目の単位数の計					11 (1)		11～15 (1)		11～15 (1)		11～15 (1)		11～15 (1)		11～15 (1)		11～15 (1)		
総合的な探究の時間 必				3～6										課題研究で代替			課題研究で代替		
単位数の総計					30 (1)		30 (1)		30 (1)		30 (1)		30 (1)		30 (1)		30 (1)		
特別活動 ホームルーム活動					35		35		35		35		35		35		35		
週当たりの授業時数					31 (1)		31 (1)		31 (1)		31 (1)		31 (1)		31 (1)		31 (1)		
備 考					① 2、3年A、Bについては、各1科目選択。理科・英語の科目については、2、3年継続選択。 ② 時間割以外で実施するもの・・・ 総合実習 1～3年各1単位 ③ 「総合的な探究の時間」3単位は、その全部を3年生「課題研究」で代替 ④ 共通科目「情報Ⅰ」2単位は、その全部を1年生「農業と情報」で代替														

三重県立四日市農芸高等学校 生活文化科

– 14 –

11. 生徒に関する調査

令和7年5月1日現在

(1) ホームルーム別生徒数

学科 \ 学年			1 年		2 年		3 年	
1年	2・3年学科	組	男	女	男	女	男	女
農業科学 食品科学 環境造園	農業科学	1	18	22	11	27	8	30
	食品科学	2	18	22	11	29	8	32
	環境造園	3	19	21	21	19	22	18
生 活 文 化		4	0	40	3	35	2	37
		5	3	37	3	36	0	40
男 女 別 計			58	142	49	146	40	157
学 年 別 計			200		195		197	
合 計			592					

(2) 通学方法別生徒数

通学方法 学年	徒歩	自転車	J R	私鉄	バス	J R とバス	J R と私鉄	J R と自転車	私鉄とバス	私鉄と自転車	バスと自転車	その他・三種以上利用	計
1学年	3	54	29	3	0	6	20	61	0	8	1	15	200
2学年	0	42	32	0	0	23	13	54	0	15	0	16	195
3学年	1	69	21	4	0	7	15	61	0	11	0	8	197
計	4	165	82	7	0	36	48	176	0	34	1	39	592
%	0.7	27.9	13.9	1.2	0	6.1	8.1	29.7	0.0	5.7	0.0	6.6	99.8

(3) 通学時間別生徒数

時間 学年	15分以内	30分以内	45分以内	60分以内	90分以内	120分以内	121分以上	計
1 学 年	11	61	68	28	29	3	0	200
2 学 年	15	43	49	42	38	7	1	195
3 学 年	23	62	54	37	17	4	0	197
計	49	166	171	107	84	14	1	592
%	8.3	28.0	28.9	18.1	14.2	2.4	0.2	100.0

(4) 通学経費別生徒数

費用 円/月 学年	不要	3,000	5,000	7,000	9,000	11,000	13,000	15,000	15,000以上	計
1 学 年	56	28	34	31	15	3	9	6	18	200
2 学 年	43	3	29	37	29	10	7	5	32	195
3 学 年	70	7	39	41	14	6	4	1	15	197
計	169	38	102	109	58	19	20	12	65	592
%	28.5	6.4	17.2	18.4	9.8	3.2	3.4	2.0	11.0	100.0

(5) 出身中学校別生徒数

市 町	中 学 校	1 年		2 年		3 年		全 校		合 計
		農業学科	家庭学科	農業学科	家庭学科	農業学科	家庭学科	農業学科	家庭学科	
桑 名 市	成 徳	1	1	0	1	1	1	2	3	5
	明 正	4	0	3	0	1	2	8	2	10
	光 風	1	1	3	0	0	1	4	2	6
	陽 和	2	0	5	4	4	2	11	6	17
	正 和	0	2	0	1	2	0	2	3	5
	陵 成	0	0	1	0	0	1	1	1	2
	光 陵	2	0	2	0	0	0	4	0	4
	多 度	3	3	3	2	1	1	7	6	13
木 曽 岬 町	長 島	5	1	7	1	4	4	16	6	22
	木 曽 岬	0	0	1	0	0	0	1	0	1
い な べ 市	北 勢	0	1	2	0	0	0	2	1	3
	員 弁	2	1	0	0	1	3	3	4	7
	大 安	1	0	1	0	3	0	5	0	5
	藤 原	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東 員 町	東 員 第 一	0	1	2	0	2	0	4	1	5
	東 員 第 二	0	0	3	2	0	0	3	2	5
四 日 市 市	中 部	2	1	2	2	2	1	6	4	10
	橋 北	0	0	0	2	0	0	0	2	2
	塩 浜	2	0	0	0	2	0	4	0	4
	港	2	3	0	1	2	1	4	5	9
	山 手	1	2	0	3	4	3	5	8	13
	富 洲 原	2	3	1	0	1	0	4	3	7
	富 田	2	0	0	1	0	0	2	1	3
	笹 川	5	4	0	2	5	3	10	9	19
	南	9	4	4	7	6	5	19	16	35
	西 陵	6	1	5	3	1	2	12	6	18
	三 滝	1	0	0	0	0	0	1	0	1
	大 池	5	2	4	0	2	1	11	3	14
	朝 明	3	4	4	3	7	3	14	10	24
	保 々	1	2	0	1	0	0	1	3	4
	常 磐	4	3	4	1	3	1	11	5	16
	西 笹 川	1	2	0	0	2	1	3	3	6
	三 重 平	0	1	1	1	1	0	2	2	4
	羽 津	5	5	3	1	2	5	10	11	21
	西 朝 明	0	1	1	2	1	0	2	3	5
	桜	0	0	3	0	0	2	3	2	5
	内 部	7	3	9	3	12	8	28	14	42
	楠	3	3	2	1	2	1	7	5	12
菰 野 町	菰 野	4	0	5	1	3	2	12	3	15
	八 風	1	1	2	4	0	0	3	5	8
朝 日 町	朝 日	2	6	3	1	1	4	6	11	17
川 越 町	川 越	0	2	5	3	6	0	11	5	16
鈴 鹿 市	平 田 野	2	1	0	2	2	2	4	5	9
	白 鳥	3	1	2	0	5	1	10	2	12
	神 戸	3	3	6	2	7	2	16	7	23
	大 木	4	2	4	2	2	2	10	6	16
	千 代 崎	2	1	1	3	2	1	5	5	10
	白 子	1	3	2	6	4	4	7	13	20
	天 栄 峰	1	2	3	2	0	2	4	6	10
	鈴 鼓 ケ 浦	0	0	1	0	0	1	1	1	2
	創 徳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
亀 山 市	5	1	2	0	2	0	0	9	1	10
	亀 山	2	1	2	2	2	2	6	5	11
	中 部	2	0	4	4	5	3	11	7	18
津 市	関	2	1	0	0	1	0	3	1	4
	橋 北	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	豊 里	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	東 観	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他	朝 陽	3	0	0	0	0	0	3	0	3
		1	0	0	0	2	1	3	1	4
合 計		120	80	118	77	118	79	356	236	592

12. 卒業生の進路

(1) 進路状況

		就職(含自営)	大 学	短 大	専門学校・各種学校	その他	計
農 業 学 科	男	25	4	1	8	2	40
	女	46	6	6	18	1	77
	計	71	10	7	26	3	117
家 庭 学 科	男	1	2	0	2	1	6
	女	33	8	3	24	1	69
	計	34	10	3	26	2	75
合 計		105	20	10	52	5	192

(2) 職業別就職者数

職 業 の 分 類	農 業 学 科			家庭学科			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
専 門 的 ・ 技 術 的 職 業	1	1	2	0	1	1	1	2	3
事 務 の 職 業	1	4	5	0	3	3	1	7	8
販 売 の 職 業	0	4	4	0	3	3	0	7	7
サ ー ビ ス の 職 業	1	4	5	1	6	7	2	10	12
保 安 の 職 業	1	0	1	0	0	0	1	0	1
農 林 漁 業 の 職 業	1	3	4	0	0	0	1	3	4
生 産 工 程 の 職 業	18	27	45	0	18	18	18	45	63
輸 送 ・ 機 械 運 転 の 職 業	1	0	1	0	0	0	1	0	1
建 設 ・ 採 掘 の 職 業	1	2	3	0	1	1	1	3	4
運 搬 ・ 清 掃 ・ 包 装 等 の 職 業	0	1	1	0	1	1	0	2	2
合 計	25	46	71	1	33	34	26	79	105

(3) 主な進路先【過去3年間】

進 学 (四大⇒短大⇒専門学校)

【国公立⇒県内⇒愛知県⇒その他の県で五十音順】

三 重 大 学	皇 学 館 大 学	鈴 鹿 医 療 科 学 大 学	鈴 鹿 大 学
四 日 市 看 護 医 療 大 学	愛 知 学 院 大 学	至 学 館 大 学	中 京 大 学
中 部 大 学	名 古 屋 葵 大 学	名 古 屋 学 院 大 学	東 京 農 業 大 学
南 九 州 大 学	酪 農 学 園 大 学	龍 谷 大 学	三 重 短 期 大 学
高 田 短 期 大 学	修 文 大 学 短 期 大 学 部	名 古 屋 文 化 短 期 大 学	西 日 本 短 期 大 学
(専)ミエ・ヘア・アーティストアカデミー	ユマニテク医療福祉大学校	ユマニテク調理製菓(専)	四 日 市 医 師 会 看 護 (専)
名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ(専)	名 古 屋 製 菓 (専)	名 古 屋 ビ ュ ー テ ィ ー ア ー ト (専)	名 古 屋 フ ァ ッ シ ョ ン (専)

就 職

【五十音順】

味の素食品(株) 三重工場	井 村 屋 (株)	A G F 鈴 鹿 (株)	カルビー(株)西日本事業本部 湖南工場
キオクシア(株)四日市工場	九 鬼 産 業 (株)	鈴 鹿 農 業 協 同 組 合	住友電装(株)(四日市・鈴鹿)
宝 酒 造 (株) 楠 工 場	(株) デ ン ソ ー	ト ヨ タ 車 体 (株)	ト ヨ タ 自 動 車 (株)
長 島 観 光 開 発 (株)	日 東 電 工 (株)	日 本 郵 便 (株) 東 海 支 社	は ご ろ も フ ー ズ (株)
富士電機(株)(四日市・鈴鹿)	本田技研工業(株)鈴鹿製作所	ホンダモビリティラボ(株) 鈴鹿サキツ	三 重 北 農 業 協 同 組 合
宮 崎 本 店 (株)	御幸毛織(株)四日市工場	ヤ マ モ リ (株)	(株) ロ ッ テ

13. PTA・同窓会

(1) 四日市農芸高等学校PTA

- ①会の設立 昭和23年
- ②会の目的 保護者と教職員の協力によって、家庭、学校および地域社会における生徒の健全な育成を図る。
- ③会の組織 正会員には生徒の保護者と教職員。特別会員には本会の目的に賛同し、その事業に協力するもの。
- ④歴代会長

朝熊 昭義、高士 義広、朝熊 昭義、池畑佐太郎、山崎 家一、上田三喜造
 伊藤 作巳、高臣 亮祥、大橋 万蔵、大森 武、河村 和生、玉田 一平
 松岡 善信、北川 保、矢田 光雄、井上 基、佐野 庄茗、南部 隆
 鈴木 進、佐藤 要、森 茂則、高木 博朗、森村 明、伊藤 文夫
 小林 寿雄、矢田 迪郎、諸岡 順衛、岡本 文夫、上杉 弘文、安田 武人
 川北 明久、河村 三郎、小川 英二、山坂 公洋、北村 隆、堀井 晴雄
 高島眞智子、北村 隆、加藤 大次、里中 英雄、伊藤 信吉、里中 俊雄
 市野 伸幸、芝田 千弘、米川 端世、服部 正人、尾崎 康美、中川 栄美
 人見 実男、上村 悠子、伊藤 正樹、樋口 みや、川口 貴史、武田 麻公
 中村 健太郎 坂下 聡宏、萩村 昌幸、田中 慎一

(2) 四日市農芸高等学校同窓会

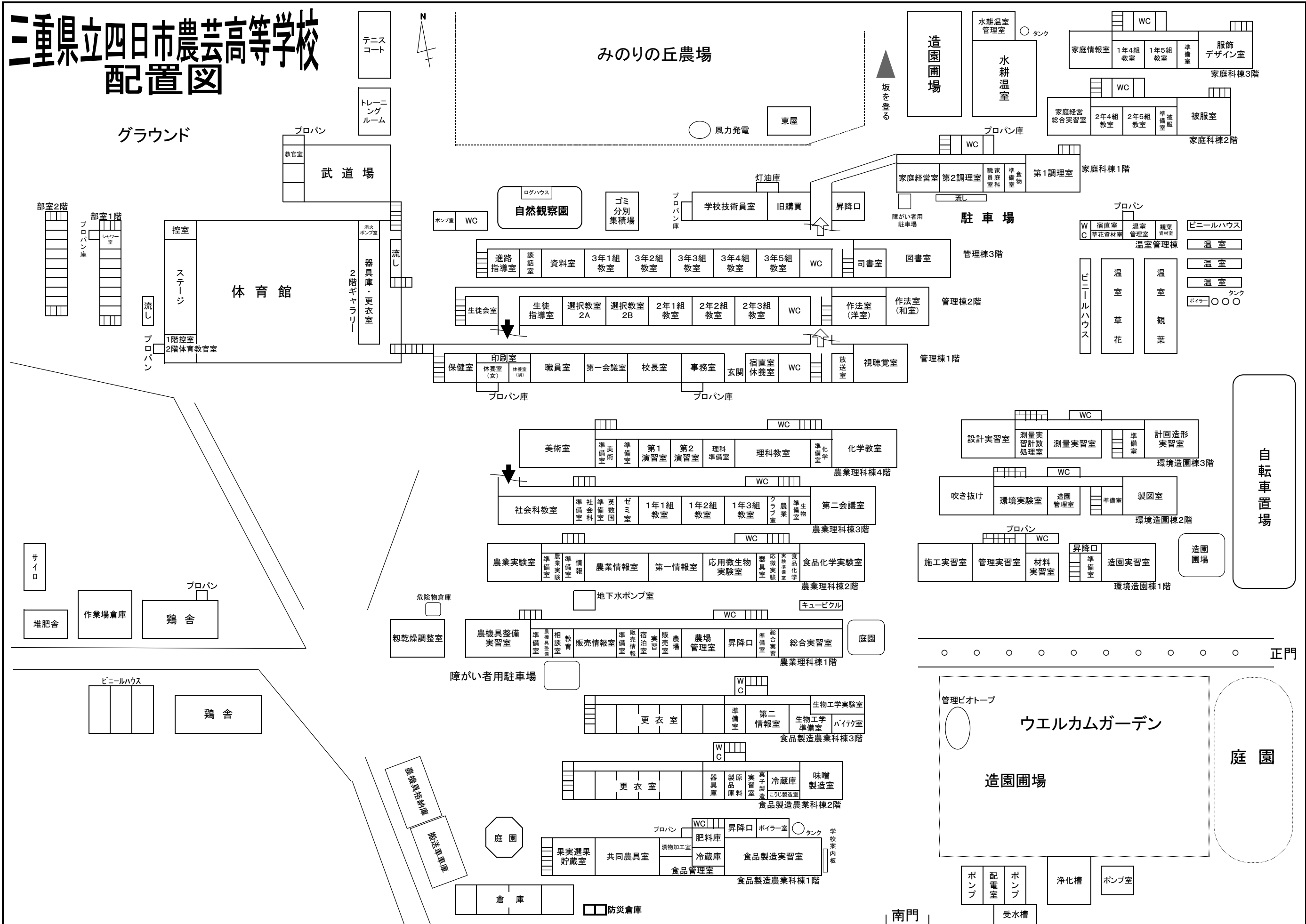
- ①会の設立 昭和32年
 旧鈴鹿農学校、旧三重農学校、旧河原田農学校、旧河原田高等学校（総合制以前、以降）旧四日市高等学校河原田部農業課程、四日市農芸高等学校卒業生を以って組織している。
- ②会の目的 母校及び地域社会の発展に寄与するとともに、会員相互の扶助親睦をはかる。
- ③役員 会長 大久保 克彦(高校32回)
 副会長 岡本 文夫(高校17回) 沖 俊成(高校18回) 森田 忠則(高校20回)
 岡安 壽光(高校25回) 松岡 良成(高校32回) 金谷 達也(高校33回)
 中川 栄美(高校37回) 諸岡 寛(高校41回) 松葉谷 光由(高校62回)

④会 員

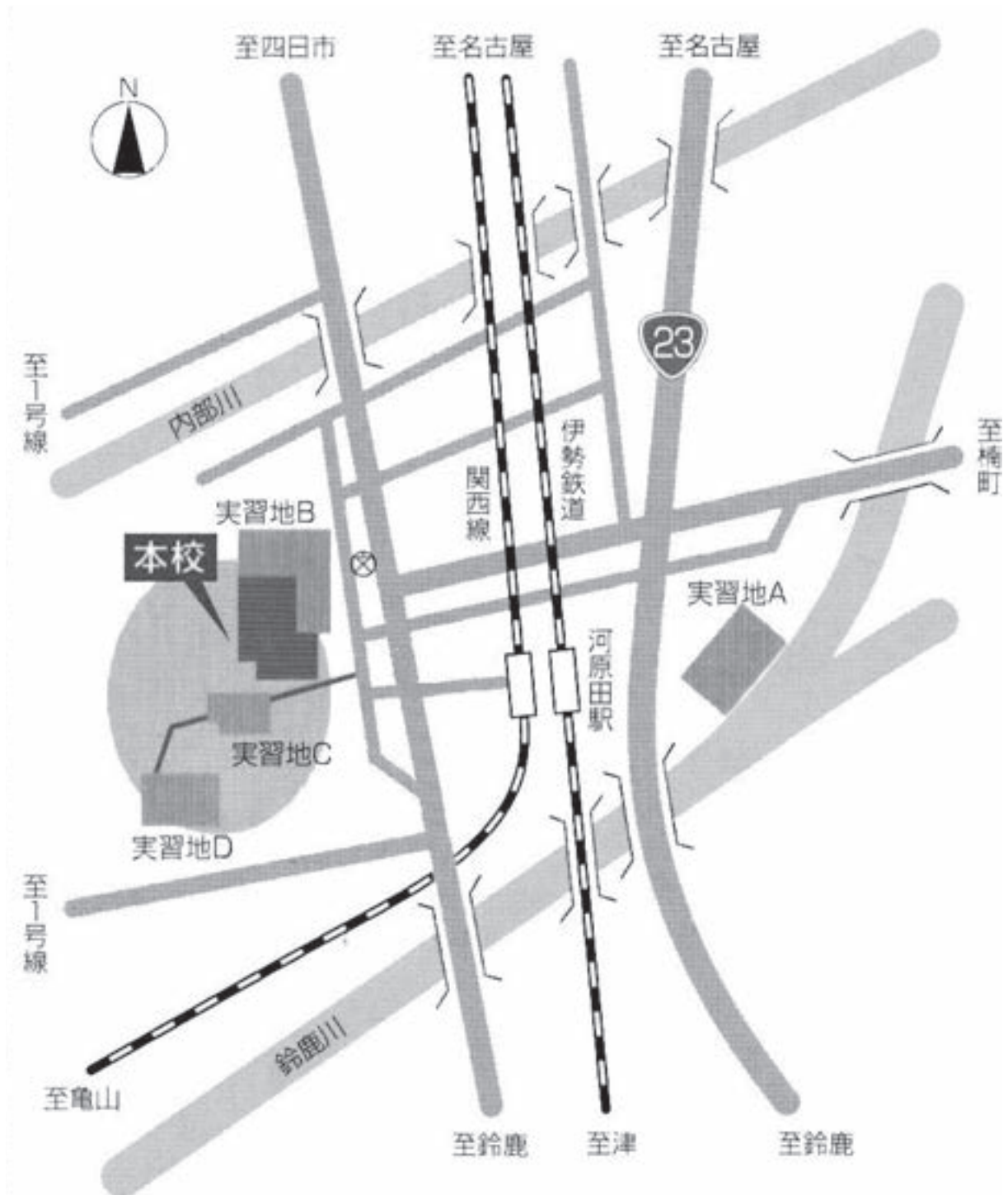
令和7年4月現在

名 称	卒業回数	同窓会員数
旧三重農学校	13 回	371 名
旧鈴鹿農学校	17 回	447 名
旧河原田農学校	21 回	1,530 名
旧河原田高等学校総合制前	1 回	23 名
旧四日市高等学校（河原田農業課程）	1 回	46 名
旧河原田高等学校総合制後	5 回	496 名
四日市農芸高等学校	77 回	15,336 名
合計		18,249 名

三重県立四日市農芸高等学校 配置図



周辺略図



市外局番（四日市059）

事務室(代表) 345-5021
 職員室(総務) 345-5022
 職員室(学年) 345-6460
 進路指導室 345-6461
 生徒指導室 345-6462
 図書室 345-6463
 URL <http://www.mie-c.ed.jp/ayokka/>

農場管理室 345-6466
 家庭科職員室 345-6471
 体育教官室 345-6472
 温室管理室 345-6476
 保健室 345-6477
 FAX 345-6996
 E-mail ayokkaad@mxs.mie-c.ed.jp

四日市農芸高等学校 環境マネジメントシステム

環 境 理 念

私たちは科学技術の発展のおかげで、たいへん便利で快適な生活を手にすることができました。しかしその一方で、限りある地球資源の大量消費やそれに伴う環境破壊が深刻化しています。このまま放置すれば、やがて人類は自分たちの身勝手な行為により自滅する危険さえ生じてきました。

私は、三重県立四日市農芸高等学校長として、美しく素晴らしい地球環境を後世に引き継ぎ守っていくために、日常の教育活動の中に導入した環境教育を充実させ、心豊かな人間性を育み、地域社会に貢献する人材を育成する学校を目指します。生徒の環境問題への関心を高め、自然や環境を尊重する態度や能力を養い、積極的な環境保全に取り組むことのできる人材を育成することを教育方針の一つとします。

そのため「環境マネジメントシステム」を構築し、実行することをここに宣言します。

環 境 方 針

1. 環境教育を推進します。
2. 環境に配慮した行動を推進します。
3. 環境汚染の予防と環境保護に努め、法規制などの順守に努めます。
4. 環境マネジメントシステムの継続的な改善に努め、開かれた学校づくりを推進します。

2025年4月1日

三重県立四日市農芸高等学校 校 長 中 田 直 人

